

各 位

令和元年 6 月 1 5 日
山形市野草園 : 山形市大字神尾 832-3
電話 023-634-4120

山形市野草園からのお知らせ



「ひょうたん池」に顔を出しているオゼコウホネ

オゼコウホネ(スイレン科)

尾瀬、月山、北海道の猿払原野など、ごく限られた地域の池や沼に自生する多年生水草です。長い花茎を水面に出し、黄色の花を 1 個開きます。黄色の花弁のように見えるのは萼片で、内部に小形の花弁があります。コウホネ属の別種コウホネとは、雌しべの柱頭盤が赤いことで区別できます。コウホネとは河骨と書き、水の中の地下茎が骨のように見えることが名の由来です。

間もなく夏至。野草園はすっかり夏の装いとなりました。園内には 3 つの池と 1 つの沼、それに湿地がありますが、「ひょうたん池」や「吉林の庭」の池にはオゼコウホネやスイレン、「大平沼」にはヒツジグサ、水辺の花がたくさん咲いています。また、湿地の「水辺の花コーナー」では青紫色のカキツバタとヒオウギアヤメ、紫色のノハナショウブが咲いています。

木かげを散策しながら、夏の水辺の花に会いにいらっしやいませんか。

【開園時間の延長】 6 月 1 日～8 月 3 1 日は、午前 9 時から午後 6 時まで開園します。尚、入園は午後 5 時までです。

【無 料 開 放 日】 7 月 7 日 (日) ・ ・ ・ 市制施行 1 3 0 周年を記念して、大人の入園料が無料になります。

6月中旬～7月上旬までのイベント予定

◆【ガイドウォーキング】

- 日 時 6/16 (日)、6/23 (日)、6/30 (日)、7/7 (日)、7/14 (日)、7/15日 (月) 祝日
①10:00～11:00 ②11:00～12:00 ③13:00～14:00 ④14:00～15:00
- 場 所 野草園内全域
- 内 容 ボランティアガイドと一緒に園内を散策。申込不要、その場で参加できます。
もちろん無料。見どころの花の場所に案内、花の説明もします。

◆【第25回写真コンテスト入賞作品展】

- 期 間 5月11日(土)～7月7日(日) 9:00～18:00
- 内 容 昨年の写真コンテストで入賞した作品展示
- 場 所 野草園自然学習センター内
- 費 用 入園料込300円(高校生以下無料)

◆【四季観察会②～夏 シダ植物～】

- 日 時 6月26日(水) 9:30～12:00
- 講 師 植物案内ボランティア 佐竹恵一 氏
- 内 容 この季節のシダ植物について学ぶ
- 場 所 野草園内
- 対 象 先着20名
- 参加費 資料代・入園料込400円(高校生以下100円)
- 申込み 電話で野草園まで Tel 023-634-4120

◆【薬草講座】

- 日 時 6月29日(土) 10:00～12:00
- 講 師 萬屋薬局学術顧問 笠原義正 氏
- 内 容 イカリソウの移植体験、苗のプレゼント、生活に役立つ薬草についての説明
- 場 所 薬草コーナー、自然学習センター視聴覚室
- 対 象 先着15名
- 参加費 入園料込300円(高校生以下無料)
- 持ち物 汚れてもいい服装、軍手
- 申込み 電話で野草園まで Tel 023-634-4120

◆【ホタル観察会】

- 日 時 6月28日(金)～6月30日(日)、7月5日(金)～7月7日(日)
19:30～20:30 (受付 19:00～19:30)
※小雨決行、悪天候の場合は中止
- 内 容 ゲンジボタルとヘイケボタルを鑑賞し、夏の到来を感じていただく
- 持ち物・服装 長袖、長ズボン、雨具 ※鑑賞中、懐中電灯は使えません。
- 対 象 各日、先着80名程度 ○参加費 入園料込300円(高校生以下無料)
- 申込み 電話で野草園まで Tel 023-634-4120

●●●6月後半に見られる主な花たち●●●



スイレン(スイレン科)

水底の土中に根と地下茎があり、葉と花は水面に浮きます。スイレン属は花が美しいのでよく栽培されます。葉の形は円形で一方が深く切れ込み、花弁と雄しべは多数あり、雌しべは合生して柱頭は放射状になります。「睡蓮」の名は「朝に花が開いて夜に閉じる」つまり、睡る蓮ということでした。



ヒツジグサ(スイレン科)

湖沼に見られる多年生水草です。卵円形で光沢がある緑色の葉を水上に浮かべて、細長い花柄の先に白い花を開きます。萼片は4枚で緑色、花弁は白色で8~15枚あり、長さは萼片とほぼ同じで、黄色い雄しべの葯が目立ちます。未草(ヒツジグサ)の名は、未の刻(午後2時)頃に開くことによります。午後から咲き、夕方には閉じてしまいます。



カキツバタ(アヤメ科)

水湿地に群生する多年草です。葉の幅が広く中央の脈がはっきりせず盛り上がりません。花茎の先に青紫色の花をつけ、3枚の外花被片には白色の斑紋があります。カキツバタは「書き付け花」のなまったものと言われています。書き付けの名のとおり、昔はこの花を布にこすりつけることで染料としたということです。



ヒオウギアヤメ(アヤメ科)

湿った草地に生える多年草です。葉の幅はアヤメに比べて広く剣状をしています。3枚の外花被片は大きくてアヤメに似ていますが、内花被片3枚は小さく目立ちません。ともに、外花被片が黄色~白色で紫色の編目が入ることで他の花と区別ができます。名の由来は、葉が桧扇(ヒオウギ)に花がアヤメに似ているからと言われています。



ハナショウブ(アヤメ科)

山野の草原や湿原に生える多年草で、ハナショウブの原種です。葉の幅が狭く中肋(葉の中央にある葉脈)があり、太くはっきりした筋となる特徴があります。赤紫色の花を開き基部は黄色です。全体が細長く外花被片は楕円形、内花被片は小さなへら形で直立していることで、ハナショウブとは区別できます。名の由来は、野生のハナショウブという意味と言われています。



ヤマボウシ(ミズキ科)

各地の山野に普通に自生する落葉高木で、ハナミズキに花や葉は似ています。花びらのように見えるのは苞(葉が変化したもの)で、その中心に淡黄緑色の小さな花が20~30個密集してつきます。花は、花弁と雄しべは4個で雌しべは1個です。秋に果実は赤く熟します。名の由来は、丸いつぼみの集まりを坊主頭に、白い苞をその頭巾に見立てたことによります。



ムシャリンドウ(シソ科)

茎先に青紫色の花をまとまってつけ、花の長さは3cmくらいで、唇形です。下唇が発達していて、濃い紫色の斑が入り、羅生門蔓(ラショウモンカズラ)にやや似ています。下部の葉には柄があり、披針形です。葉は幅の広い線形で、向かい合って生える対生です。また、葉の脇から数対の線形の葉をつけた短い枝が出ます。



ガマスミ(レンブクソウ科)

日当たりの良い山野や林縁などに普通に生えます。幹は株立ち状になり、太い幹は4cm程度になります。葉は対生し、葉身は広卵形から円形、基部は広いくさび形、あるいは多少心形になるものがあります。縁には浅い鋸歯があります。本年枝の先から散房花序を出し、白い小さな花を多数付けます。



ニッコウキスゲ(ススキノキ科)

本州の中部地方以北の山地に生える多年生草本で、草原に群生することがよくあります。花茎の先にオレンジ色の花を3~4個つけます。花は朝開いて夕方にはしぼむ1日花で、漏斗状の鐘形です。若葉やつぼみはおいしいらしく、カモシカが大好きです。ニッコウキスゲの正式和名は、ゼンテイカ(禅庭花)です。



トビシマカンゾウ(ススキノキ科)

海の近くに生える多年草です。草丈が高い点を除いてはニッコウキスゲと区別点は見いだせなく、海岸という立地に基づく生態型(島嶼型)であろうと考えられています。飛島では全島にわたって広く分布しています。花や蕾を取って食用にしたり、葉は稲わらの代用として島民の生活に利用されていました。



スモークツリー(ウルシ科)

別名はハグマノキ、雌雄異株で3mmほどの小さな淡緑色の花を穂状にたくさん咲かせます。花後、雌株は不稔花(タネを結ばない花)の軸部分(花柄)が長く伸びて羽毛のようになり、花穂の見た目がもふもふした感じになります。名前は、この花穂が煙のように見えるところに由来します。果実が風に乗ってより遠くに飛ばされるように、花柄が羽毛状に伸びるとも言われています。



ハコネウツギ(スイカズラ科)

太平洋側の山地に生育する高さ2m程の落葉低木です。対生する葉はやや厚く、枝先に多数の筒状花を付けます。花は初め白色で、徐々に紅色に変化し、1つの木に白色と紅色の花が咲き並び華やかです。また、雌しべの柱頭が少し出ていて目立ちます。箱根の低地に自生しています。



ヤナギラン(アカバナ科)

山地の日当たりのよいところに生える多年草です。茎は直立して分枝がなく、葉は互生し披針形で葉柄はなく裏面は帯白色です。茎の先に多数の紅紫色の花を開き、だんだん下から上へ咲き上がります。先駆植物で、山野が工事跡などで荒れると進出しますが、木が茂ると姿を消します。名は、花が美しい蘭に、葉が柳に似ていることによります。



ウリノキ(ミズキ科)

山地に普通に生える落葉低木です。花は咲いたと思うと、すぐに落ちてしまいます。花弁は6枚で線形です。写真のように著しく外側に巻き込みます。雄しべは12個あり、葯は黄色で細長いです。果実は楕円形で藍色に熟します。名は葉の形がウリの葉に似ていることからつけられました。花も果実も楽しむことのできるウリノキです。



アワモリショウマ(ユキノシタ科)

近畿地方以西、四国、九州の山地などに自生しますが、観賞植物として庭園に植えられる多年生草本です。葉は2~4回三出複葉、小葉は披針形、基部はくさび形、堅くて光沢があります。上部に円錐花序を出して、多数の薄いピンクの小花をつけます。名は漢字で泡盛升麻と書き、泡が集まったような花を形容して名付けられたと思われる。



ウツボグサ(シソ科)

日本各地の山野の草地に普通に見られる多年草です。茎の断面は四角形で、葉は対生し長楕円状披針形です。茎の先に花穂をつけ、紫色の唇形花を密につけます。うつぼ（鞆）とは昔、武士が矢をさして背負った武具のことで、この植物の花穂がそれに似ているから、その名がつけられました。



オニシモツケ(バラ科)

山地の谷沿いに群生する多年草です。葉は奇数羽状複葉で頂小葉は特に大きく掌状に5裂します。茎の先に多数の白色の小花を密集して開きます。花弁は4~5枚で雄しべは多数あり花弁よりずっと長く目立ちます。シモツケソウの仲間では一番大きいのでオニの名がつけられました。



シモツケ(バラ科)

山地の日当たりのよい場所に生える落葉低木です。高さ1m程度、葉は互生して狭卵形~卵形、縁には鋸歯があります。花は散房状に群がって小さな5弁花をつけ、普通は淡い紅色。雄しべは多数。花後、小さな5個の袋果をつけます。シモツケは、生育地の下野国（現在の栃木県）からつけられた名ですが、本州から九州まで広く見られます。



ホタルブクロ(キキョウ科)

チョウチンバナ、ツリガネソウ、ホタルグサなどの方言がある、山野に生える多年草です。茎の上部に大きな鐘形の花をつけます。花は淡紅紫色または白色で、先は5裂します。萼片のところにそり返った附属体があります。そり返らないのは、ヤマホタルブクロです。名は蛍袋で、ホタルを入れて遊んだからと言われていています。



エゾアジサイ(アジサイ科)

日本固有種で、北海道と本州北部及び日本海側の山地の斜面や沢沿いに生えます。葉は先のとがった楕円形で大きく、縁に粗い鋸歯があり、対生します。花は青淡色の小さな両性花の周りに、花弁4枚の大きめの装飾花を付けます。花の色は青色系統と赤色系統があります。